

平成22年度 21世紀文明研究セミナー 《A 安全安心》

安全安心研究の最前線	講義内容
<p>平成22年10月19日(水) 13:30~15:00</p> <p>安全安心研究の最前線について</p> <p>林 敏彦</p> <p>(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究統括、同志社大学政策学部政策学科特別客員教授</p>	<p>このセミナーでは、当研究機構をはじめとする関西の安全安心研究の最前線について紹介する。はじめに「安全安心」概念について確認し、次いで「危機管理サイクル」の中にそれがどのように応用されるかを見る。次いで、近年国際的な関心が高まっている環境問題と災害との関連について、内外の研究を紹介する。アジアの安全安心については、シンガポール南洋工科の「非伝統的安全保障研究センター」の活動を紹介します。</p>
<p>平成22年11月12日(金) 13:30~15:00</p> <p>所得や経済成長で安全安心は買えるか</p> <p>林 万平</p> <p>(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部 研究員</p>	<p>低成長時代に伴い、経済不安が叫ばれるようになって久しい。体感的な不安感に対して、個人の経済状況や地域の経済環境はどのような影響を与えているのだろうか。人々の主観的な心理状況は、経済環境に影響を与えないが、社会環境は個人の主観的な心理状況に影響を与える可能性がある。また、その程度は個人の相対的な経済状況に依っても左右される可能性がある。高所得者は安心感を獲得しているのか、経済成長は人々の不安感を減少させることができるのだろうか。分析の結果、地域の経済成長率の向上は人々の地域生活における安全安心感を高めている事が確認された。個人の相対的な経済状況による、人々の安全安心感への影響は確認することができなかった。</p>
<p>平成22年11月26日(金) 13:30~15:00</p> <p>福祉産業は地域に安心の経済循環をもたらすか</p> <p>桜井 靖久</p> <p>(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部 主任研究員</p>	<p>地域における賑わいの衰退の原因は、グローバル化、少子高齢化、地球環境などの様々な原因があります。そのため、なにかの量を増やしたり、経済にとって効率的だというようなまちづくりではなく、長く住みたいと思えたり、何かあっても大丈夫という安心のある循環型のまちづくりへの転換をはかることが求められているのではないのでしょうか。</p> <p>そのようなまちづくりの核として、福祉産業が近年注目されていますが、この業界には多くの問題も存在しています。それを克服し、地域が成長する安心とは何かをお話したいと思います。</p>
<p>平成22年12月15日(水) 13:30~15:00</p> <p>エコビレッジは低炭素社会の集落モデルになりえるか</p> <p>山崎 亮</p> <p>(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部 主任研究員</p>	<p>中山間地域では昔からエコロジカルな生活が営まれてきた。こうした知見を生かして、ニュータウン型のエコビレッジではなく、集落をエコビレッジ化することによって低炭素社会に貢献する新たなエコビレッジをつくりだすことを提案する。低炭素社会に貢献するために兵庫県がなすべきことのひとつとして、現在の集落が抱えている問題とエコな生活を夢見る都市住民とを橋渡しするような施策があるのではないだろうか。</p>

平成22年度 21世紀文明研究セミナー 《 A 安全安心 》

安全安心研究の最前線	講義内容
<p>平成23年1月26日(水) 13:30~15:00</p> <p>緊急時に首長は誰を頼れるか -災害時の課題と首長の果たすべき役割-</p> <p>紅谷 昇平</p> <p>(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構人と防災未来センター研究主幹</p>	<p>住民の安全に責任を負う都道府県知事や市町村長にとって、災害や危機への対応は最重要課題です。しかし実際には、危機や災害はめったに発生しないため、ノウハウや経験が不足する 경우가ほとんどです。本セミナーでは、過去の災害対応事例を分析し、自治体のリーダーである首長が直面した課題や果たすべき役割、首長を支えるための仕組みについてお話しいたします。</p>
<p>平成23年2月25日(金) 13:30~15:00</p> <p>国際的な災害対応に日本は何ができるか</p> <p>楠 綾子</p> <p>関西学院大学国際学部准教授</p>	<p>(準備中)</p>

平成22年度 21世紀文明研究セミナー B 共生社会

健やかな長寿社会に向けて	講義内容
<p>平成22年10月6日(水) 13:30～15:00</p> <p>公-民の関係の転換期 —政府はどのような役割を果たすべきか—</p> <p>矢野 秀利 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部上級研究員、関西大学社会学部教授(社会システムデザイン専攻)</p>	<p>この10年で公共部門に対する人々の意識は大きく変わってきました。住民の公的なものへの厳しい視線です。そして、官におまかせというあり方から、住民が自分たちの町に自分たちでという気持ちになってきました。このような中で官と住民との間にどのような関係性をつくっていくのか。公共概念を再確認しこれからの官—公—民(住民・家族)の関係性を考えていきます。</p>
<p>平成22年11月24日(水) 13:30～15:00</p> <p>「新しい公共」をめぐるボランティアの意義と限界</p> <p>久保田 裕之 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部研究員</p>	<p>(準備中)</p>
<p>平成22年12月1日(水) 13:30～15:00</p> <p>高齢社会の医療</p> <p>後藤 武 (財)兵庫県健康財団副会長兼理事長</p>	<p>高齢者は生活習慣病に侵されることが多く、認知症や終末期など特有の疾患や病態に遭遇する機会も少なくない。人口の高齢化が進むなか、こうした高齢者をはじめとする利用者にとって効果的な医療サービスはどうあるべきか、また、それを支える望ましい医療制度はどうあるべきかなどについて述べる。</p>
<p>平成22年12月22日(水) 13:30～15:00</p> <p>高齢化と介護保険 ～家族介護者の評価と支援について～</p> <p>張 帆 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構調査研究本部特別研究員</p>	<p>近年の深刻化しつつある介護問題に対応するために実施されたものが介護保険制度である。しかし、介護保険制度によっても、家族介護の代替として全面的に外部化された介護サービスに移行することは不可能であろう。これからも介護問題において大きな役割を持つ家族介護を介護保険制度の中でどのように評価し、いかに支援していくかが、持続可能な介護保険制度の構築のために重要である。本講義では家族と介護問題についていくつかの考察を行う。</p>

平成22年度 21世紀文明研究セミナー B 共生社会

健やかな長寿社会に向けて	講義内容
<p>平成23年1月28日(金) 13:30~15:00</p> <p>女性・高齢者の就労支援と家庭支援および雇用の創出 ー地域における就労機会の増大戦略ー</p> <p>阿部 真大</p> <p>(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部主任研究員</p>	<p>(準備中)</p>
<p>平成23年2月2日(水) 13:30~15:00</p> <p>国際的視点から見る高齢化問題 ～WHOが推進する長寿社会のあり方～</p> <p>狩野 恵美</p> <p>WHO健康開発総合研究センター(WHO神戸センター)テクニカル・オフィサー</p>	<p>日本は世界で最も高齢化の進んでいる国ですが、高齢化現象は実際世界の多くの国で見られています。これは社会、経済、保健衛生・医療分野などにおける発展を表す反面、医療費増大や高齢者のクオリティー・オブ・ライフなど、様々な社会問題も生み出しています。これに対応してWHOとその加盟国が、世界の様々な都市での研究と事例をもとに策定した、高齢者に優しい都市づくりに関する国際的なガイドラインなどをご紹介します。日本が世界の見本となれること、日本が世界の他の都市から学べることなどを参加者の方々とディスカッションします。</p>

平成22年度 21世紀文明研究セミナー 《 C 防災 》

地震災害への対応	講義内容
<p>平成22年10月12日(火) 13:30~15:00</p> <p>首都直下地震と阪神淡路大震災</p> <p>中林 一樹 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構人と防災未来センター上級研究員、首都大学東京 大学院都市科学研究科教授</p>	<p>30年以内に70%の確率で発生するという首都直下地震。阪神淡路大震災と同じマグニチュード7.3で行った被害想定では、東京湾北部に震源をおいた東京湾北部地震が冬の夕方、風速15mの下で発生すると、最大震度6強であるが、全壊20万棟・全焼65万棟(160万世帯が自宅喪失)、帰宅困難者650万人、避難所避難者270万人、復興費用65兆円、経済損失47兆円と阪神淡路大震災の8倍の被害。この被害にどのように対応できるのか。阪神淡路大震災の教訓を如何に活かせるか。</p>
<p>平成22年10月20日(水) 13:30~15:00</p> <p>歴史的建造物と地震災害</p> <p>清野 純史 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構人と防災未来センター上級研究員、京都大学大学院工学研究科教授</p>	<p>地震に対する歴史的建造物の保護・保存は、地震地帯に存在する世界遺産を始めとする各種文化遺産にとって重要な課題である。人々の心の拠り所となる歴史的モニュメントをはじめとする建造物を後世へ残すために、世界遺産に指定されているイランの「バムとその文化的景観」やネパールの「カトマンズバレー」を例にとり、保有耐力を把握するための現地調査や地震応答解析、それに基づく耐震性評価について講述するとともに、歴史的建造物の今後の地震リスクマネジメントへ向けた取り組みについて言及する。</p>
<p>平成22年11月17日(水) 13:30~15:00</p> <p>大地震時の交通対策</p> <p>中川 大 (公財)ひょうご災記念21世紀研究機構人と防災未来センター上級研究員、京都大学大学院工学研究科教授</p>	<p>阪神淡路大震災においては、地震直後の緊急対応時において深刻な交通渋滞が発生し、緊急車両の通行、物資の輸送、被災者の避難など多くの面において障害となった。自動車が普及した大都市においては、同様のことが起きる可能性が高いがその対策は進んでいるとは言えない。多くの防災計画が想定している「緊急輸送路を指定して、緊急自動車を優先させる」という考え方は阪神淡路大震災の教訓を活かしているとは言えず、より本質的な対応策が必要であることを解説する。</p>
<p>平成22年12月10日(金) 13:30~15:00</p> <p>国内外の災害医療</p> <p>甲斐 達朗 (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構人と防災未来センター上級研究員、大阪府済生会千里病院副院長・千里救命救急センター長</p>	<p>(準備中)</p>

平成22年度 21世紀文明研究セミナー 《 C 防災 》

地震災害への対応	講義内容
<p>平成23年1月19日(水) 13:30~15:00</p> <p>サイコロジカル・ファーストエイド ~こころのケガの応急手当~</p> <p>明石 加代</p> <p>(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構こころのケアセンター主任研究員</p>	<p>わが国では阪神・淡路大震災以降、「こころのケア」という言葉が広く知られるようになった。しかし被災直後の混乱期に何をすべきなのか、あるいは何をすべきではないのかなど、その内容についてはいまだ十分に認識されていない。アメリカで開発された災害支援者のための研修マニュアル「サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引」を参照しながら、災害・大事故に対する適切な心理的支援法について考える。</p>
<p>平成22年2月4日(金) 13:30~15:00</p> <p>災害対策をめぐる国際協力の仕組み</p> <p>林 万平</p> <p>(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部研究員</p>	<p>アジア地域は日本、中国、台湾をはじめとする地域で、巨大地震災害を経験してきている。その経験と問題意識を共有するために、日中台の国際会議を過去2年で3回開催してきた。その内容より、復興基金の在り方、四川大地震と阪神大震災の違い、経済復興における諸問題やコミュニティビジネス、NGOによる復興支援の在り方など、幅広いテーマについて紹介する。</p>

平成22年度 21世紀文明研究セミナー 《 D 環境 》

地球温暖化への取り組み	講義内容
<p>平成22年10月5日(火) 13:30~15:00</p> <p>地球温暖化防止に向けて</p> <p>鈴木 胖</p> <p>(財)地球環境戦略研究機関関西研究センター所長</p>	<p>産業革命以降、人類は使い勝手のよい化石燃料を大量に消費して物質生産を拡大し、人口を増やしてきた。化石燃料の消費により発生するCO2は大気に排出され、大気の温室効果を増大させ、地球温暖化を引き起こしている。地球温暖化を防止するには、化石燃料への依存を出来るだけ減らし、将来はCO2の排出と吸収をバランスさせなければならない。その道筋を示し、現在行われている努力を紹介する。</p>
<p>平成22年10月26日(火) 13:30~15:00</p> <p>気候変動対策国際交渉と低炭素技術のインドへの適用</p> <p>志々目 友博</p> <p>(財)地球環境戦略研究機関関西研究センター副所長</p>	<p>気候変動に関する国際交渉では、先進国から途上国へ低炭素技術を移転することがクローズアップされているが、先進国と途上国の間には制度的・技術的な障害が存在し、この障害を乗り越えるための方策を確立することが求められている。この一環として、本年度からIGESが開始したインドへの低炭素技術適用に関する研究を紹介し、技術移転に関する課題と対応を議論する。</p>
<p>平成22年11月10日(水) 13:30~15:00</p> <p>家庭部門のCO2排出量削減ー うちエコ診断事業の成果と行政施策への展開ー</p> <p>①飯野 博夫 ②泉 美江子 ①(財)地球環境戦略研究機関関西研究センター主任研究員 ②(財)ひょうご環境創造協会環境創造部次長兼温暖化対策課長</p>	<p>地球温暖化防止のため、家庭部門においてもCO2排出量の大幅削減が必要となっている。上記を目指す実践的な対策として、「うちエコ診断事業」(CO2排出量を「見える化」し要因分析を行い、各家庭に応じた適切な対策の提案を行う)スキームを研究・開発しパイロット事業を実施した。講義では、パイロット事業の研究成果及び行政における全県展開の内容などについて紹介する</p>
<p>平成22年12月8日(水) 13:30~15:00</p> <p>環境先進地域・関西 ～低炭素社会構築に向けた貢献</p> <p>藤原 幸則</p> <p>(社)関西経済連合会理事・経済調査部長</p>	<p>関西は深刻な環境汚染問題を一丸となって克服してきた経験があり、いまや環境・エネルギー分野の技術・産業が集積する世界有数の地域となっている。関西は環境先進地域として、その優位性やポテンシャルを活かして、国内外の低炭素社会構築に貢献できる。関経連では、低炭素社会構築プロジェクト、アジア地域への環境技術提案と人材育成に取り組んでいることを紹介する。</p>

平成23年1月12日(水) 13:30~15:00	地球温暖化／気候変動の脅威から将来世代を守るために、低炭素経済の構築に向けて世界は動き出している。日本では、政治の混迷もあって、CO2などの排出削減は経済を疲弊させると対策に抵抗が続いているが、EUでは今世紀当初からの既に制度整備を行ってきており、リーマンショック後、グリーン・ニュー・ディール政策として世界に広がっている。予想を超える速度で進む再生可能エネルギーの拡大、省エネ製品の開発普及の波は、単なる経済成長戦略としてではなく、2050年80%削減という大幅な炭素制約を前提として、エネルギー政策や産業構造を根本から転換しようとするものだ。世界の動きを的確に把握し、国と自治体の取組みを探る。
地球温暖化防止の国際枠組み、及び、わが国の低炭素経済の構築に向けた国と自治体の役割を探る	
浅岡 美恵 NPO法人気候ネットワーク理事長、弁護士	

平成23年2月9日(水) 13:30~15:00	アジア太平洋地域は世界の半分の人口が集中しているとともに、多様な生態系・自然に恵まれた地域である一方、環境変動の影響が国の範囲を超えて及ぶため、地域が一体となった研究が必要である。研究成果が各国の政策立案に活かされるために、科学者と政策立案者との連携が重要であることから、APNはアジア太平洋地域の国々のネットワークを構築し研究・政策立案の連携を支援している。本講義は地球変動研究とAPNの役割・活動を紹介するものである。
地球環境の変動に関する国際的な研究について	
藤塚 哲朗 アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)事務局長、(財)地球環境戦略研究機関(IGES)APNセンター長・関西研究センター参与、兵庫県農政環境部参事	

平成22年度 21世紀文明研究セミナー 《 E 芸術 》

美術館の役割	講義内容
<p>平成22年10月15日(金) 13:30~15:00</p> <p>美術館が果たす役割</p> <p>菘 豊</p> <p>兵庫県立美術館館長</p>	<p>今年4月に兵庫県立美術館に就任した菘館長によるレクチャー。「美術館が街を変える」をキーワードに、県民が身近に感じられ、子どもの感性を育てていく楽しい美術館にしていくための環境づくりを語ります。楽しい店が並ぶミュージアムロード計画では地域の経済波及効果を高める美術館作りを目指します。</p>
<p>平成22年11月5日(金) 13:30~15:00</p> <p>県立美術館のコレクション</p> <p>出原 均</p> <p>兵庫県立美術館常設展・コレクション収集管理グループリーダー</p>	<p>(準備中)</p>
<p>平成22年12月3日(金) 13:30~15:00</p> <p>展覧会見学とレクチャー ザ・コレクション・ウィンターウール</p> <p>速水 豊</p> <p>兵庫県立美術館特別展・国際交流グループリーダー</p>	<p>(準備中)</p>
<p>平成23年1月21日(金) 13:30~15:00</p> <p>震災のことを美術を通じて伝える</p> <p>河崎 晃一</p> <p>兵庫県立美術館 館長補佐、企画・学芸部門マネージャー</p>	<p>震災後16年目を迎え、直後はその役割を發揮できなかった美術表現が、時間を経てその役割が明らかになってきた。震災後の情景を描くこと、その思いを絵にする人の表現から美術を通じて震災を伝えていくことの意義を考える。</p>

平成22年度 21世紀文明研究セミナー 《 E 芸術 》

美術館の役割	講義内容
平成23年2月18日(金) 13:30~15:00	(準備中)
美術品を守る 保存修復の世界	
田中 千秋	
兵庫県立美術館保存修復グループリーダー	
平成23年3月4日(金) 13:30~15:00	(準備中)
個人コレクションと美術館	
①坂上 義太郎 ②河崎 晃一	
①BBプラザミュージアム顧問 ②兵庫県立美術館館長補佐、企画・学芸部門マネージャー	